

田中たかし

決算特別委員会 総会質疑で登壇

児童虐待 なんととしても根絶を!

議会通信 vol.16 (2022年 秋号)

田中たかし市政相談所

住所 〒819-0378 福岡市西区徳永北14-27 1F
Tel・Fax 092-407-6236
E-mail tanakatakashi.office@gmail.com



写真: 会派を代表して本会議場で3回の登壇!
9月議会では、議案質疑と決算特別委員会総会質疑で合わせて3回質問に立ちました。

決算特別委員会にて、田中たかしは会派を代表して総会質疑で登壇。
令和3年度の福岡市における児童虐待の現状と対応を確認するとともに、児童虐待根絶に向けた提言を行いました。

Point 1 福岡市の児童虐待は増加傾向!

令和3年度、福岡市の児童虐待相談対応件数は2,685件と過去最高を更新しました。

◆ 児童相談所における児童虐待相談対応件数

平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
1,292	1,908	2,449	2,637	2,685

◆ 児童相談所における児童虐待相談対応件数の相談経路別内訳(令和3年度)

警察	近隣・知人	学校	保護者・親戚・児童本人	関係機関	その他
1,812	503	134	100	86	50

質問 児童虐待の増加傾向について、要因は何だとお考えか、お尋ねします。

回答 児童虐待相談の増加の背景、社会の児童虐待への関心が増加し、虐待の心配がある児童を発見した場合は、児童相談所へ通告するといった意識が浸透したことが考えられる。

質問 (相談経路として警察が圧倒的に多いが…) 児童相談所を含めた、本市と警察との連携はどのようになっているのか、教えてください。

回答 ▶ 児童相談所内にある福岡県警の少年サポートセンターを始め、県警本部、

各警察署とも日頃から情報交換や対応方針の共有を図っている。
▶ また、毎年実施の福岡県警との連絡会や、模擬家庭訪問を取り入れた合同の研修に児童相談所の職員が参加している

質問 (子どもと一番身近な学校からの相談件数が少ないように感じる…) 虐待を受けている子どもが、家族以外の誰かに打ち明けられるよう、子どもに対してどのような教育、対策を取っていますか。また、虐待を受けている子どもたちの声なき声を拾えるようにするには、どのような取り組みがありますか。

回答 ▶ 学校や幼稚園・保育園など、地域において、子どもへの暴力防止プログラムなどを実施。
▶ 学校アンケートやスクールソーシャルワーカー等を通じた相談。
▶ 児童相談所での24時間電話相談。
▶ 令和4年7月からは、福岡市立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の全ての児童生徒に貸し出されているGIGAスクール端末を活用した「福岡市子どもタブレット相談」。
▶ 子どもの意見表明を支援するアドボケイトの派遣を開始。

田中たかしのプロフィール

経歴 福大大濠高校卒業/拓殖大学卒業/法政大学大学院修了/国会議員政策秘書 等/福岡市議会議員(1期目)
所属 生活環境委員会副委員長/議会運営委員会委員/議会改革調査特別委員会委員/九大移転・跡地対策協議会委員 他

Point 2 父親に向けた虐待防止対策を!

福岡市は実父による虐待が母親を逆転。父親の特性を見極め、適切な対策が必要です。

◆ 児童相談所における児童虐待相談対応件数の虐待者内訳(令和3年度)

実父	実母	継・養父	継・養母	その他
1,245	1,173	158	8	101

質問 乳幼児健診などでは父親の育児状況も把握し、必要があれば父親に対しても積極的な支援が必要かと思いますが、父親へのアプローチについて当局の認識をお聞かせください。

回答 ▶ 乳幼児健診などにおいて、保健師等が家庭全体の状況を把握。

質問 父親を軸に据えた子ども虐待防止施策を検討する必要があると思いますが当局のご所見をお聞かせください。

回答 ▶ マタニティスクールや親子教室、乳幼児健診など、父親も参加できる様々な機会を捉えて、育児に関する助言を実施。
▶ 引き続き、父親が参加しやすい、子育てに関する相談体制づくりを進める。

田中たかし memo

児童虐待防止策として、乳児家庭全戸訪問や産後ケア事業、特定妊婦への生活支援など様々講じていますが、受け手は母親がメイン。行政が父親と直接コンタクトをとるのは困難が多いことを指摘しました。父親の虐待は子どもの数が多いほど、増加するとの研究報告もあることから、第2子以降の出産に伴う年長児への対応を含め、しつけ方法に関する知識の普及や相談体制の整備など、父親の虐待を予防する独自の施策を要望しました。

Point 3 地域の「目」で未然防止・早期発見を!

一人ひとりが「虐待をさせない、見逃さない、見落とさない」強い決意で気を配ろう。

質問 虐待防止のためには、地域の「目」が欠かせないと考えますが、虐待の未然防止、早期発見について地域との連携はどのようになっているのか。現状をお聞かせください。

回答 ▶ 民生委員・児童委員によるこにちは赤ちゃん訪問の実施。
▶ 「要保護児童支援地域協議会」において、医師、弁護士、警察、教育、保育などの地域の関係機関で構成する協議会が連携しながら支援を実施。
▶ 子どもが関係する団体が参加する「子ども虐待防止活動推進委員会」において、虐待防止に向けた広報や啓発活動を行い、市民・行政・地域などを含めた社会全体で子どもを見守る取組を推進。

▶ 地域の医療機関向けの相談窓口を設置し、虐待に関する相談に対応。
▶ これらを通じて、市民・行政・地域などを含めた社会全体で子どもを見守る取組を推進。

質問 地域を巻き込み子どもを見守る、孤立している家庭を救う、そのための積極的な施策が福岡市にも新たに必要なのではないかと考えますが、ご所見をお伺いします。

回答 ▶ 児童虐待の早期発見・早期対応と併せて、虐待を起こさせない取組を進めることが重要。
▶ 児童相談所や区の相談体制や在宅支援策の充実のほか、地域のネットワークによる支援など、行政と民間団体・地域が連携した取組を進める。

田中たかし memo

行政の努力だけでは虐待の未然防止には限界があります。支援策や相談体制が整備されていても、育児や貧困に悩む市民が自ら救いを求めないと公的支援に繋がりません。本当に困っている人は精神的余力が無い方も多く、申請や相談に至らないケースもあることから、市民が虐待に対する意識を高めて周囲に注意を払い、少しでも兆候があれば当事者への声掛けや行政へ報告をすることで、虐待は防ぐことができます。

田中たかしから行政へ要望

虐待する親も実は苦しんでいる。地域の「おせっかい」が虐待から救う!

議場で要望 虐待者の中には、誰かに止めてもらいたい、助けてほしいと思っている人も多くと言われています。さらに、そうやって誰にも相談できず、孤独の中一人で思い悩み虐待をしてしまった挙句、外部に知られば、社会の悪者として近所や地域から見られ、敬遠されることもあります。虐待した親を悪者として責めるだけでは、一層社会から孤立してしまうこととなり、同じ悲劇を繰り返さないとも限りません。

子どもは地域の宝とはいっても、プライバシーに敏感になった今は、人様の家庭におせっかいをやくことはハードルが高いかもしれませんが、地域の人たちの気づきや声かけが、虐待に苦しむ家庭を助けることとなります。行政として地域を巻き込んだ施策の一層の充実と市民の虐待問題に対する意識向上のための取組を強く要望します。